

令和元年 11月13日（水） 14時～16時
居宅介護支援事業者と医師会との合同研修会

テーマ「誰のための医療と介護の連携か？」

講演： 1. 医療介護専用 SNS「メディカルケアステーション（MCS）」を利用した多職種連携

東淀川区医師会 副会長 辻 正純 先生

2. 医療と介護の連携において介護支援専門員の課題はどこにあるのか？

まごころステーションすくらむ 代表 村瀬 崇人 氏

3. グループワーク テーマ：「望む暮らし」をかなえるために

参加者：合計 145 名（ケアマネジャー 106 名・医師 10 名・歯科医師 3 名・薬剤師 8 名・訪問看護師 19 名）

毎年開催しているケアマネジャーと医師会との合同研修会。今回は「誰のための医療と介護の連携か？」というテーマで開催しました。

まず、東淀川区の多職種で取組んでいる MCS についての説明と、MCS を活用した多職種連携の事例を医師会副会長の辻先生から講演して頂きました。医療と介護の連携にはさまざまな課題があり、その中の情報共有であったり、介護側の敷居の高さを下げる役割も果たす MCS。多職種連携のツールの一つとして、東淀川区でがりをみせています。

次にケアマネジャーの役割や現状、今後の医療と介護の連携においてケアマネジャーの課題はどこにあるのかなど、ケアマネの立場から村瀬氏にお話をして頂きました。

ケアマネジャーの揺れる自己像として、多職種連携のなかで自分たちの役割が見えにくくなる、揺れ動く情勢と制度に翻弄される、人材難・業務負担・社会資源の枯渇や疲弊、孤立して燃え尽きる、将来像が見えない等々ケアマネジャーの課題について知ることができました。

